

使い手を第一に、暮らしに寄り添う器を作る

えちぜんやき 越前焼 × よしだ ゆう き 吉田 雄貴 [福井県越前町] えちぜんちよう

平安時代末期に誕生した越前焼は、壺や甕、すり鉢などの日用雑器として使われ、古くから人々の暮らしを支えてきました。越前焼は、越前町で採掘された鉄分の多い土の特徴を生かして作られています。素朴で温かみのある風合いが魅力で、今も多くの人に暮らしのなかで愛用されています。1993(平成5)年、越前町平等地区で吉田豊一さんが築いた豊彩窯では、伝統の素材や技法を生かしながら、現代の感覚に合った新しい越前焼を目指してきました。現在は、父親の豊一さんと同じくものづくりの道を志した雄貴さんの親子2代で作陶しています。雄貴さんは、越前漆器や越前打刃物など県内の伝統工芸技術を取り入れるほか、積極的に新たな試みにも取り組んでおり、若い感性で越前焼の伝統と向き合っています。



●花器

父の吉田豊一さんの作品。ジグソーパズルをモチーフに作られた遊び心あふれる花器。作陶のかたわら、日展や日本現代工芸美術展の作品づくりにも励んでおり、その作品は工房でも展示している。



●花器

主張しすぎず、かといって地味にはならない、暮らしに寄り添う器づくりを心がけている。

【豊彩窯】

福井県丹生郡越前町平等44-11
TEL: 0778-36-2005
090-9764-4357 (携帯)
<https://housaigama.jp/>



●たまごまぜまぜ

卵を溶くために作った専用の器。器の縁に箸を引っ掛けられるなど、使いやすい形になっている。



●植木鉢

鯖江市にある観葉植物店とのコラボレーションにより制作。越前焼の土の特徴を生かして彩色している。

吉田 雄貴 (豊彩窯)

1993年、福井県越前町(旧織田町)に生まれる。京都精華大学で陶芸を学び、2016年に大学卒業後、地元の福井に戻り、実家である豊彩窯で作陶を始める。特に釉薬の開発に力を入れており、日々新たな釉薬の調合を試している。豊彩窯で、電動ロクロを使った制作体験を指導するほか、地元の学校で陶芸を教えることもあり、地元の伝統工芸の魅力やものづくりの楽しさを伝えている。

紹介動画は
こちらから